

生徒が主役となって生き生きと学べる授業実践

－「現代社会」におけるチーム学習の試み－

千葉県立〇〇高等学校 〇〇 〇〇（現代社会）

1 はじめに

本校は創立108年の歴史を有す地域の伝統校である。かつては文武両道に優れ、進学・就職で良好な実績を挙げ、部活動でも体操・陸上・空手・相撲等が全国大会で上位の成績を収めた。

しかし、こうした隆盛も今となっては遠い過去のものとなった。過疎地域に立地し、最寄り駅の電車の本数が少ないことや少子化による影響等から、平成の時代が進むにしたがって入試倍率が年々低下し、生徒募集に困難をきたすようになり学級数も大幅に減少していった。

そのような状況を打破するため、「特色ある学校づくり」への取り組みとして教育課程を大きく変更し、平成15年度入学生から、2年時・3年時において、「ビジネス・情報・デザイン・家政・文系・理系」という6つのコース制を導入した。これにより生徒の幅広い興味関心や進路希望等に応えられるようになり、またキャリア教育の充実にも力を注いできた。さらに、平成20年度からは「地域連携アクティブスクール」に指定され、文部科学省や県教委、県下で同じ指定を受けた他校との協議によって、地域に根ざした新しい学校づくりに取り組んでいる。

2 本校生徒の状況

本校に在籍する生徒は、「読み・書き・計算」をはじめとする義務教育段階における基礎学力がほとんど身につけていない生徒が多く、無気力で集中力が続かなかったり、多動的で落ち着きがなく、人の話を聞くことが苦手であったりするケースが多い。

このような生徒に対し、いかに「学習意欲」の向上を図り、授業を成立させていけばよいのか。これは地歴・公民科のみならず、本校職員に共通した悩みであり深刻な課題でもある。教師側が一方的に話して生徒に聞かせるというオーソドックスな「一斉講義型の授業」では、本校の生徒の「学習意欲」を引き出すことは極めて困難である。むしろ、生徒間のおしゃべりや眠気を誘うことにつながり、ますます授業を飽きさせてしまうことになる。そういう点で従来の授業方法には限界を感じており、どう改善していくべきか思案に暮れる日々であった。

本校にはただ単に学習意欲が低いだけではなく、対人関係や集団生活への適応が苦手な生徒も少なからず存在する。不用意な言動で友人とトラブルになったり、寡黙で自己主張ができなかったりする状況が日常的によく見られる。また、卒業後の進路は、ほとんどの生徒が就職を希望している。卒業後は、それまでののんびりした高校生活とは環境ガラッと変わり、直ちに社会人としての自覚と責任が求められる。そこで、会社見学や面接試験はもとより、職場内での良好な人間関係を築くことや取引先との交渉、地域社会への寄与などという点においても基本的なコミュニケーション能力を身につけておくことが必要である。

3 主題設定の理由

今後の授業研究を考える材料として本校1学年の生徒にアンケートを実施した。(116名が回答)

社会科の学習は「得意だ」＝17%
社会科の学習は「苦手だ」＝83%

現代社会の学習内容は「難しい」＝42%
「そうでもない」＝58%

この問いは中学校時代について尋ねたものだが、社会科の学習を苦手とする生徒が圧倒的多数である。このような生徒の苦手意識はどのようにしたら変えていくことができるのだろうか。

幸いにも「現代社会の学習内容が難しい」と答えた生徒は半数弱と、思ったよりも少なかった。生徒は、2年時に日本史、3年時には世界史および政治・経済と履修していくが、この結果から、現代社会の授業形態を工夫改善し、そのやり方次第では、他の科目に対する苦手意識もいくらか克服することができ、また興味をもたせることもできるのではないかと考える。

また、生徒に「授業が楽しい、面白いと感じるのはどんなときか」という質問に対しては、

・学習内容が理解できたとき ・自分で答えることができたとき ・新しいことを知ったとき

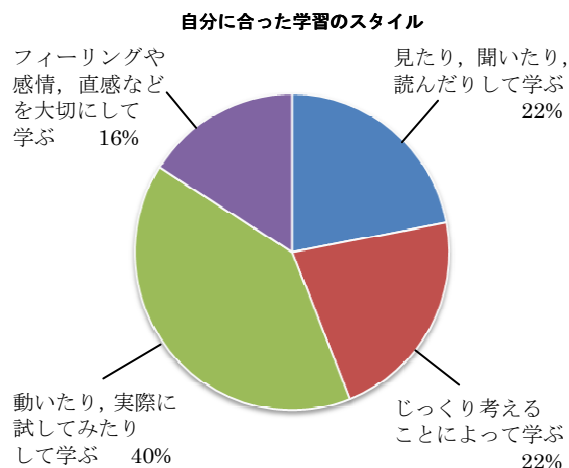
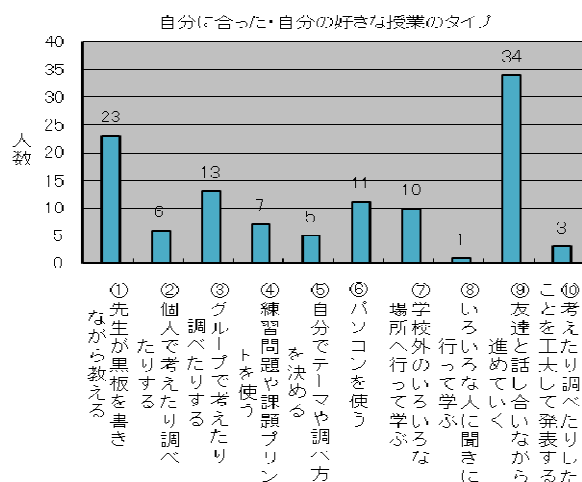
という答えが比較的多かった。また、生徒が自由に記述した意見の中に次のようなものがあった。

・みんなが意見を出せるような授業 ・自分で調べる授業
・自分で考えたり書いたりして答えを見つけ、まとめていく授業

このような意見を述べた者は、本校の生徒の中ではかなり学習意欲の高い生徒と思われるが、今後、授業形態を研究していくうえで大いに参考にすべき貴重な意見であると考えられる。

そこで、本校の生徒の学習状況や課題を考慮した場合、彼らの「学習意欲」をうまく引き出せるような、彼らが意欲的に主体的に参加して学んでいけるような授業形態を考えていきたい。

本校の生徒は、様々な個性を持ち合わせており実に多様である。したがって、それぞれの生徒に応じた学び方や教え方が必要になってくるのではないだろうか。そこで、「自分に合った、自分の好きな授業のタイプ」についてアンケートを実施してみた。(113名が回答)



アンケートの集計結果から、生徒が選んだ「授業のタイプ」は、分散し多様化していることがよくわかる。意外にも講義型授業の①を選んだ生徒が、全体の5分の1と結構多かった。しかし、このうち約7割の生徒が本校では成績上位者に入ることを考慮した場合、①のタイプの授業では多くの生徒の「学習意欲」を引き出すことは難しいと思われる。一方、③と⑨のタイプを選んだ生徒を合わせてみるとほぼ半数になることから、本校の生徒は、自分一人ではなく、仲間と複数で学習活動に取り組めるような授業を好んでいることがわかる。

これとは別に「自分に合った学習のスタイル」についてアンケートをとった。(102名が回答)こちらの結果では、「動いたり、実際に試してみたりして学ぶ」ことを選んだ生徒が、他の3項目に比べ約2倍にのぼっている点が目を引く。つまり、本校の生徒が体験的に学ぶことを好む傾向にあることがはっきりと表れている。

以上、2つのアンケート結果から、「グループを通じて体験的に学ぶ」スタイルであれば、本校の生徒の「学習意欲」を引き出し、主体的・意欲的に学ばせることができるのではないだろうか。

4 研究内容

前述した本校生徒の意識から、今回の研究テーマとして「**チーム学習**」を取りあげてみたい。

「チーム学習」とは cooperative learning, すなわち「**協同学習**」を意味する。小グループに分かれ、課題や目標に向かって構成員が役割と責任を分担し、お互いに顔を突き合わせ、協力し助け合うなかで信頼関係を築きながら学んでいく過程を重視する授業形態である。

日々の社会生活では、家族・地域・職場といった集団や組織で活動し、他者と協力しサポートし合いながら問題解決に当たることはいたって当然のことである。その際に自分の意見を述べる一方で相手の意見も尊重でき、他者との調整を巧みに図れる技能を身につけておく必要がある。多様な人間関係は生涯にわたって続いていき、価値観の多様化やグローバル化が進む現代を生きる上で、それは必須のスキルであろう。その点において「チーム学習」は大きな効果が得られるのではないだろうか。また、経済産業省が「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として提唱する「社会人基礎力」の育成にも結びつくものと思われる。

「チーム学習」を通じて生徒が達成感や満足感を得られる。それが米国の心理学者マズローの「欲求階層説」のごとく、生徒が「自分の居場所がある、自分は認められている、受け入れられている、必要とされている」という自己肯定感に繋がる。そうした経験を積み重ねることで彼らの中に日々生きていくうえでの大きな自信や勇気が湧き起こり、自己実現に向かう姿勢が生まれ、「人間としての在り方・生き方」についても自覚を深められるようになることを期待したい。

5 チーム学習展開上の留意点

次の(1)～(3)の記述に関しては、「ホリスティック教育」のウェブサイト、日本協同教育学会発行の『先生のためのアイディアブック』、東京大学大学院 佐藤学 教授の『学校の挑戦』、そして佐藤教授の理論に基づく広島県立安西高校のグループ学習の実践から引用したものである。また、下線部はチーム学習の特徴を示す部分、斜体文字は本校生徒の実態を考慮した点である。

(1) チーム学習を効果的なものにするための共通意識・共通行動

- ◆ 学習課題に対してチームのメンバー全員がベストを尽くし、お互いに協力し助け合う。その際にメンバー同士の円滑なコミュニケーションによって各人の考えや意見の違いを調整・克服し、その過程で相互的な理解を深め合い信頼関係を築いていく。
他のメンバーに頼ることがあっても、自分も何か手助けできることがないかを考え、常に自分に対して責任をもつ。
これを基本ルールとし、その都度生徒に掲示して絶えずチーム学習の目的を理解させ、意識させるようにしていく。生徒には「一動作一文」という明確な指示を心がける。
- ◆ 教師に頼ることから脱却し、わからないことはまずチームのメンバーに質問する。
これによってチームの自主自律や一体感をつくりだしていく。
本校の生徒の場合、二言目には「センセー…何やるのォ?」と始まるので、このあたりの意識改革を早い段階で改めさせることがポイントである。

(2) チーム学習を展開する際の教師側の留意点

- ◆ 授業内容や課題は、協同的な学習を成立させる視点から易しすぎないように設定する。
- ◆ 話し合いや学び合いが起こりにくいチームへの支援のあり方や、チーム内の学び合いに参加できない生徒を他のメンバーとどうつなぐかに配慮する。
かなり厳しいレベルの生徒もあり、支援的な発想・手法が必要である。
- ◆ チーム学習を展開することによって授業がどういうものになればよいのか、その具体的な姿や理想像を生徒と教師が共有できるようにする。
- ◆ 「わからない人に教える、あるいは、わかる人から教えてもらう」という学び合う関係を構築し、互恵的に支え合うことによって生徒はさらに学ぶことができる。

(3) チームの編成

チーム編成は、男女混合で4人組を原則とし、多様なメンバー構成にする。定期的に編成を組み替えて、クラス内のいろいろなタイプの人と対話や活動ができるようにする。

- ◆ 1チーム4人ならば生徒一人一人が学習に参加していかざるをえない状況になり、誰もが発言する機会が自ずと生まれる。人数が多過ぎると何もしない生徒や疎外感をもつ生徒が出たり、チーム内に仲の良い者同士で小グループができてしまったりする。また、仲の良い者同士で編成すると、チーム内の規律が薄れておしゃべりに興じる懸念がある。
- ◆ 普段あまり話す機会が少なかったり、タイプが異なったりする生徒同士でチーム構成されることにより、次のような効果が期待できる。
 - ①適度な緊張感が生まれ、個人で取り組むよりも真剣に効率よく作業が進む。
 - ②チーム内に異なった視点が混在し、多様なアイデアや意見が生まれる。
 - ③誰とでも親しくなれる機会ができ、相互理解が深まってより良い人間関係を育む。
 - ④派閥ができにくくなり、多様なメンバーによるチーム編成への抵抗感が緩和される。
 - ⑤自分とはタイプの異なる相手とうまく接するための技能を身につけられるようになる。
- ◆ 男女比がアンバランスなために、チーム内に男子または女子が一人だけになって孤立してしまうようであれば、男子のみ、女子のみのチームを作ることも必要だろう。
チーム編成は、生徒の実態や取り扱う学習課題などを考慮したうえで、臨機応変に行ってよいのではないか。
- ◆ チームの座席は、男女を互い違いに並べ、各チームを教室内に「コの字型」に配置し、生徒同士がお互いの表情を感じとれるように、教室内に一体感が生まれるようにする。

6 年間指導計画への位置づけ

月	学 習 内 容	授 業 実 践
4 5 6 7	○現代社会の諸課題 ・地球環境・資源・エネルギー問題 ・科学技術の発達と生命の問題 ○現代の社会生活と自己実現 ・現代社会のすがた ・高度情報化社会、少子高齢化社会	実践(1)では「働く意義」について自己の生き方と関わらせて考察させる。実践(2)では冤罪を通じて人権問題を認識させ、「裁判員」として司法参加する意義を理解させる。実践(3)では政治のあり方を、実践(1)ともからめて自分の生活との関わりから考察させ、政治参加することの意義を理解させる。3つの実践を通して良識ある公民として必要な能力と態度を養い、社会参加の重要性を認識させ心構えをもたせる。 授業実践(1)「労働者の権利と雇用問題」 (求人票チェック・ランキング) 授業実践(2)「人身の自由、冤罪、裁判員制度」 (ロールプレイ)
9 10 11 12	・青年期の意義と自己実現 ○現代の経済と国民の福祉 ・市場経済のしくみ ・企業、政府の役割と責任 ・福祉社会 ○現代の民主政治と民主社会の倫理 ・基本的人権と日本国憲法	
1 2 3	・国民主権と政治参加 ○国際社会と日本の役割 ・国際経済、国際政治の動向 ・平和と共生の追究	授業実践(3)「選挙制度と政治参加」 (マニフェスト作成・模擬選挙)

7 授業実践

実践(1):「労働者の権利と労働問題」

ア 学習のねらい

- (ア) 本校生徒の進路希望はほとんどが就職である。そこで、就職活動に備えキャリア教育的視点から、労働者の権利や労働条件、今日の日本の雇用問題について理解させる。
- (イ) 本校に届いた求人票を教材として用いることによって「就職」を身近に感じさせ、求人の内容について理解を深め、3年時における会社選びへの予備知識としておく。
- (ウ) チーム学習による協同的な活動を経ることによって、生徒に「働く」ことの意義を考えさせ、適切な勤労観・職業観を養わせる。

イ 学習活動の概要

第1時

- ① 授業の冒頭で次の項目について生徒にアンケートを実施する。

- ・あなたにとって「働く」ことにはどんな意義があると思いますか。
- ・職業を選ぶとき、あなたはどんな条件を重視しますか。
- ・あなたはフリーターという働き方をどう思いますか。

- ② 労働基本権（勤労権・労働三権）や労働三法（特に労働基準法）の内容や条文を教科書で調べ発表する。次に日本の雇用問題について学習する。

第2時

- ① 求人票をチェック…チーム編成のポイント：選択した**職業＝チーム**となる本校に届いた過去の求人票からチーム数分の職種を用意する。

【例：看護師・美容師・バスガイド・ホテルマン・警備員・宅配ドライバー・工場労働者等】
生徒は自分の希望する職種の求人票のコピーを1人1枚ずつもらう。

- ② 求人票をよく読み、会社の概要や労働条件等をワークシートに書き込む。
（制限時間内に終わるようにメンバー同士が協力し合う）

- ③ チェックを終えたら、チームごとに自分の会社の求人内容について発表する。

第3時

- ① 「同じ労働者でも、正社員とフリーターとでは、どんな点に違いがあるのか」求人票を調べた経験を生かして、各チームで話し合い、箇条書きにまとめる。
- ② 次に「正社員とフリーターとの収入格差」について学習し、その後①で話し合った両者の違いや、第1時の冒頭での「フリーターという働き方」に対する自分自身の回答を振り返りながら、「フリーター」についてもう一度各自で考える。

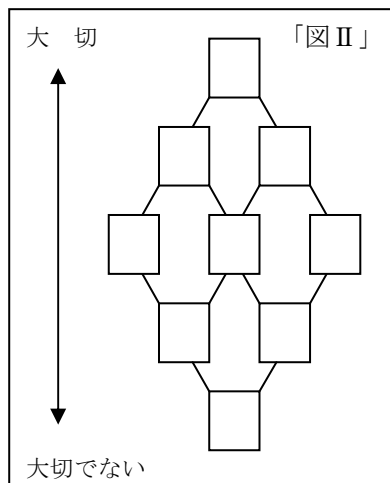
第4時

第1時でとったアンケート「働くことにはどんな意義があるのか」への答えとして出た生徒の意見をベースに、働く意義として「大切なことは何か」を個人およびチームで考える。その際に「ランキング」という手法を用いる。

ランキング

ある課題について用意された選択肢、または出されたアイデアや意見などを、良いと思うものや重要と思うものを上位から並べていく。ランクづけをする過程で生徒同士が意見交換をしていくことにより、自分との価値観の違いや共通性に気づくことができる。

学習の前と後では考えが変わってくることもあるので、同じことを2度やってみるのもよい。（今回は事前のアンケートとランキングの結果とで、自分の考えや意見の変化を比べてみた）



教師側の考えや基準で選択肢を設けた場合、生徒に自分たちで他に入れたいものがあるか確認してみてもよい。

「図Ⅰ」 「ランキング」選択肢

規則を守ることや礼儀・マナーを学ぶ。 責任感をもて、しっかりと最後までやりとげる。	自分の夢や将来に備えて資金を蓄える。	生きるため、生活するためにお金を稼ぐ。また、その手段として必要なこと。
社会に貢献したり、人の役に立てたりすることで、生きがいや生きる喜びを感じられる。	汗を流す。	自分自身を成長させ、磨き上げ、たくましく、体力や集中力を磨く。
大人、社会人としての第一歩、自立や独立するために必要な準備のこと。大人になる、大人として認められたいこと。	ニートにならないようにする。	人との関わりが深く、コミュニケーションをとることが大切。

② 学習指導案

	学 習 内 容	学 習 活 動	指導上の留意点
導入 (5分)	・「働くことにはどんな意義があるのか」に対する生徒の回答	・配布された回答を見て、自分の答えを確認し、他の生徒の答えにも一通り目を通す。	・生徒の回答を9つの項目(=選択肢)に分類したプリント(図I)を配布。
展開 (30分)	・「ランキング」とは… ・個人による順位づけ ・チームによる順位づけ ・各チームで行ったランキングの発表	・「ランキング」の方法について説明を聞く。 ・印刷された9つの選択肢を切り離し9枚のカードにする。 ・働く意義として「大切である」「大切ではない」ものを5段階に分類し、台紙に貼り付ける。 ・チーム毎に分かれ、メンバー全員が合意できるように意見を出し合い調整していく。 ・順位だけでなく、どのような話し合いや方法を経てそう決まったのか併せて説明する。(説明できるようにその内容については、予めランクづけしていく作業の中でメモしておく)	・順位づけするための台紙を配布する。(生徒数分+チーム数分) ・「正解はない」ことを伝え、自分なりに優先順位を考えさせていく。 ・選択肢を切り離したり、台紙に貼り付けたりする作業を迅速にやらせる。 ※ランクづけされた結果よりも、ランクづけする過程が重要である。 チーム内で自由に意見を出し、その根拠を聞きながら合意形成していくように心がけさせる。 また、合意にこぎつけるまでに、生徒が自己のもちうる能力をいかに活用したかを評価する。
まとめ (10分)	・ランキングの振り返り	・個人でした時とチームでした時とで、違ったことや感じたことについて感想を書く。	・個人とチームとで二度やることの意義に気づかせる。

個人によるランキングでは、その生徒の人生観を感じ取ることができる。

ウ. 考察

1. チーム全体としての作業への取り組み

うまくいった	50%
うまくいった時もあった	47%
うまくいかなかった	3%

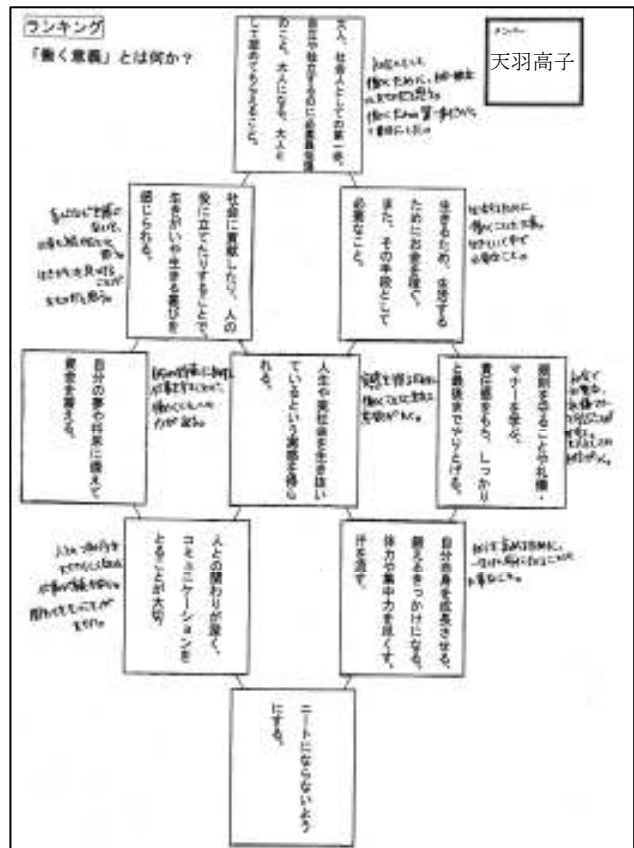
2. チームの一員としての自分自身の取り組み

メンバーといつも協力し合えた	43%
メンバーと協力し合えた時もあった	49%
メンバーとうまく協力し合えなかった	8%

3. ランキングをやってみての感想

おもしろかった	75%
つまらない	4%
よくわからない	21%

「チーム学習」に対しては、チーム全体から見た場合は、概ね協力的に取り組めたと感じているが、個人単位で見た場合は、その意識が若干低くなっている。



「労働条件や労働基準法について理解できたか」という問いに対しては、3分の2の生徒が「ある程度は理解できた」と答えている。教師の説明を聞いただけ、あるいは、個人で学んだだけで果たしてここまで数字が上がったのだろうか。具体的な教材として本物の求人票を用いたこと、細かくびっしり記載された紙面を一人で読み取ることに抵抗感があるが、多数の目で求人票をチェックしたことで、一人では気づかないことにも気づくことができ、内容理解の一助にもなったと言えるのではないだろうか。ただし、「あまり理解できなかった」という生徒が3分の1いることも事実なので、なお一層の工夫が必要である。



← ランキングの様子

次に、チームでランキングをした際に「困難だった点」として生徒から出された意見と、それに対して生徒自身がどう対応したのかをまとめてみた。

【チームでのランキングの困難な点】

- ・発言や意見がなかなか出ない。
- ・普段話をしたことがほとんどない人達だったので、コミュニケーションや意見調整するのに苦労した。

【解決方法および努力・工夫した点】

- ・自分から意見を出すように心がけて、他のメンバーが発言しやすい雰囲気にした。
- ・冗談を言ってその場を和ませようとした。

- ・チーム内で考えや意見がバラバラな時にどうまとめていくか。
- ・メンバー一人一人の意見を尊重し考慮して決めなければいけない。

- ・意見が一致しているものから優先的に上位にランクするようにした。
- ・もうすぐ就職するので、自分たちに何が必要か、何ができるかを基準にして考えた。
- ・助言や説得などを地道に積み重ね、納得いくまで話し合い、最後は多数決で決めた。
- ・まず自分の考えをうまくまとめておき、その後でメンバーと相談して決めた。

各チームで努力や工夫をしていることがわかる。「チームの誰かが助けてくれたと思ったのはどんな時か」と問うと、「リーダーシップを発揮して頑張ってくれた人がいた」「みんなが悩んでいるときに、結論づける意見を出してくれた」という答えがあった。状況に応じて自発的にリーダー(まとめ役や進行役)的な役割を果たそうという生徒の存在は貴重である。

一方教師側も、チーム内での協力体制の構築や活発な意見交換ができるように、その下地づくりをするための有効な手立てを講じるように配慮しなければならない。

ランキングをやった後に生徒からは、「自分と他の人との考え方の違いがよく分かった」、「自分の意見と人の意見を比較できるいい機会になった」という感想が多く出された。

「個人によるランクづけ」では、テーマに対する**多様な考え方**(選択肢)を比較検討しながら、**自分の考えで整理しまとめる**ことである。「チームによるランクづけ」では、**意見交換**することにより、そのテーマについて**多様な判断があることを知り、理解をより深めるもの**になる。ランキングのねらいは「自分との価値観の違いや共通性に気づくことができる」という点にあるが、それを事前に生徒に伝えてあったわけではない。つまり「個人」と「チーム」でのランクづけという2度の作業過程を経て、生徒自身がまさにそのねらいを感じ取ってくれたわけであり、私自身も生徒の言葉からそれを確認することができた。

また、生徒に「フリーターという働き方をどう思うか」と質問したところ、否定的な意見が多く出されたが、次のような肯定的な意見も見られた。

- ◆個人の自由だから、その人の人生だから、自分自身が良ければいい。◆ニートよりはまし。
- ◆自立できていればいい、暮らしていければいい。◆今のような就職難の時代には仕方ない。
- ◆働いている、お金がもらえるということでは同じだからいい。◆自由なところがあっていい。
- ◆夢を追い求める、やりたいことを探しているならいい。◆フリーターでも頑張っていればよい。

但し、「正社員とフリーターとの収入格差」を学習した後に同じ質問をしたところ、フリーターを肯定的に捉える意見は皆無となった。こうした学習経験や「働く意義」について考えたことが、本校の生徒の安易な進路選択の歯止めになることを期待したい。

実践（２）：「人身の自由、冤罪、裁判員制度」

ア 学習のねらい

- (ア) 日本国憲法では、なぜ「人身の自由」について規定した条文が多く、また他の自由権の条文よりも詳細な内容になっているのか。その理由について理解させる。
- (イ) 「人身の自由」を、具体的な題材を基にした「ロールプレイ」を通じて生徒に体感させ、そこからさらに「冤罪」が起ころうる危険性についても認識させる。
- (ウ) 「裁判員制度」を通じ国民が裁判に参加する意義を理解させ、また死刑か否かの判断を迫られる昨今の状況から、公正に人を裁くことの重大さについても理解させる。

イ 学習活動の概要

- 第１時** ① 憲法では「人身の自由」をどう規定しているか。各チームで調べ、発表する。
 ② 「人身の自由」に関しては、他の自由権よりも詳細な規定が設けられているが、その理由について各チームで話し合い、意見をまとめて発表する。

- 第２時** ① 刑事事件の発生から裁判までの流れや手続きを、各チームで調べ、発表する。
 ② 上記の学習活動を踏まえ、検察官・裁判官・弁護人の役割について理解する。

- 第３時** 「足利事件」の概要について学習し、冤罪への関心を高める。

- 第４時** この事件を題材にして「ロールプレイ」（寸劇）を行う。

ロールプレイ

自分とは違う立場の役割を演じることにより、自分とは異なる視点や考え方があることに気づかせる手法で、自己の価値観や見方の変更・再構成を図れる。

- ① 大まかなシナリオを教師が準備して生徒に配布する。
 - ② チーム編成のポイント…シナリオに登場する人物のイメージに応じた形で、声の大きさや活発さ等をバランス良く考える。
 - ③ 各チームでシナリオに加筆してオリジナリティを出し、配役を決めて練習する。
- 第５時** ① 各チームがシナリオに沿って実演する。見ている生徒は役柄ごとに設けた審査項目をチェックし、印象に残った点などコメントを記入する。
 ② 冤罪を生み出す背景、冤罪が被害者にもたらす様々な損失について、チームで話し合い、意見をまとめて発表する。
- 第６時** ① 「裁判員制度」が導入された目的や意義、人を裁くという立場の重みを考える。
 ② 足利事件が起きた当時、裁判員制度が実施されていたら、裁判の結果や被告人の人生にどう影響したか、チームで話し合い、意見をまとめて発表する。

ウ 考察

全体的な印象としては、メンバー同士が積極的に話し合いながら配役を決め、楽しく練習していて活気に溢れていた。普段授業中におしゃべりが目立つ生徒は、水を得た魚のように嬉々として取り組んでいた。意外にも、日頃は喜怒哀楽を面に出さないおとなしい女子生徒が、満面の笑顔で取り組んでいたことは特に印象的なシーンであった。

1. ロールプレイについて	
よくできた	31%
まあまあよくできた	64%
よくできなかった	5%

2. チームの一員としての自分自身の取り組み	
メンバーとうまく協力し合えた	54%
メンバーとまあまあ協力し合えた	43%
メンバーとあまり協力し合えなかった	3%

3. ロールプレイを使った授業について	
おもしろかった	73%
つまらなかった	7%
わからない	21%



← ロールプレイの様子

ロールプレイの演技について、「よくできた」「まあまあよくできた」と自己分析する生徒のほとんどが、「みんながやる気に満ちて一丸となって大きな声を出し、それぞれの役柄の立場や状況を考えて、それになりきって真剣に演じていた」ことを理由に挙げた。彼らなりに、できるだけ臨場感やリアリティを出せるように、感情を込めて演じようとしたことがわかる。

ロールプレイへの参加状況もほぼ全員が「協力できた」と答えている。その理由としては、「それぞれの役柄がもつ雰囲気をもみんなで話し合ってから役作りに取り組み、てきぱき動いていた」ことだとしている。しかし、一部のおとなしいタイプの生徒の中には「みんなの前で演じることは恥ずかしく抵抗感がある」、「あまり乗り気でない人がいて、役柄になりきれていなかった」などの理由で協力できなかったという意見もあった。

ロールプレイを使った授業が「おもしろい」と答えた生徒は7割を超えた。その理由では、「チームごとにそれぞれ工夫して取り組んでおり、演技に味があった」「同じシナリオでも演じる人によってさまざまな表現方法があって面白かった」「いろんな人の演技方を見ることができた」など寸劇そのものに対して興味があること。また、「実際に再現してみると意外にも当時の状況がわかるものだった」「犯人にされてしまう状況を体験できた。またやってみたい」「いくつかの状況や場面を設定したことから、誤認逮捕や冤罪が起こる背景がよくわかった」「被疑者が罪を認めてしまう、自白してしまう理由がわかった」などロールプレイを通して「冤罪の背景や怖さ」を体感し、理解が深まったことへの充足感からくるものと2通りある。

いずれにせよ、ロールプレイは「動き」の要素がある分、本校の生徒にとっては受け入れやすい手法であると言える。

実践（３）：「選挙制度と政治参加」

ア 学習のねらい

- (ア) ４年後には有権者となることから、選挙を「シミュレーション」して体験学習させることにより、わが国の選挙制度について理解させ興味・関心をもたせる。
- (イ) ２００９年の総選挙において、国民の意思による政権交代が実現したことの意義と、最近の選挙で注目される「マニフェスト」について、チーム学習を通して生徒自身に考えさせ、主権者として政治参加することの重要性を認識させる。

イ 学習活動の概要

(ア) 授業に入る前に、生徒に次の課題を指示しておく。

「自分が選挙で当選したらどんな政策を実現するか」を考え、マニフェストにまとめる。
(現代社会の授業で学んだこと、新聞・ニュース等の報道、自分自身の政治への要望などから考える)

(イ) 本校の生徒の実態から考えた指導上の留意点

【マニフェストの作成にあたって】マニフェストとは本来、財政・経済・国防・社会保障・教育・環境等の国政全般にわたる公約を指すのだろうが、そのような多岐にわたるものを作成することは、本校の生徒の能力からすると難しい。そこで、「国民全体が豊かで幸福になるための政策」という視点に立ち、自分たちの身近な生活からテーマを絞り、それに沿ってチームで5項目程度の公約を考えさせた。また、政党名も各チームの公約を象徴したものにする。単に国民受けがいいものや絵空事ではなく、また公約を実現するための財源も考慮できるように考えさせたい。

【投票にあたって】政党が乱立していると、本校の生徒の場合、いくつものマニフェストを比較して投票する政党を絞りこむ際に、混乱したりいい加減に決めたりすることが懸念される。そこで、各クラスが5, 6人のメンバーで5つの政党を作り、あるクラスの生徒全員が、別のクラスの政党のマニフェストを見て投票する方法で実施した。(自分のクラスの政党に投票すると、大抵自分が所属する政党に投票するであろうから得票数に差が出ないと思われる) また、他のクラスに投票する場合でも、政党の構成メンバーがわかってしまうと、邪念が入って人物本位で選ぶ傾向に陥り真剣味が無くなることもありうる。そこで、投票時には候補者名簿は記載せず、生徒にはマニフェストだけで支持政党を決めさせる。開票する際には候補者名簿を生徒に提示し、誰が当選したのか確認していく。実際に次のようなローテーションで投票させてみた。 [1 A→1 D→1 B→1 C→1 A]

- 第1時 ① わが国の選挙制度について学習する。
② 1人10秒程度で、全員が自分で考えたマニフェストを公表する。

- 第2時 ① チーム編成のポイント…似た公約の者同士でチーム(=政党)をつくる。
(マニフェストのまとめやすさを考慮) そのメンバー(=黨員)でテーマを絞り、再度マニフェストを作成する。
また、政党名も決める。(公約の内容をイメージできるようなものにする)

- ② 各政党が立候補…チームごとに順位をつけた候補者名簿を作って提出する。

- 第3時 ① 会場(投票所)を設営する。事前に投票箱と投票用紙を作成しておく。

- ② 投票先のクラスの各政党のマニフェストの一覧表を印刷し、生徒に配布する。

- ③ 各政党のマニフェストを熟読、比較した上で、自分の考えや要望に叶う政党を真剣に選んで投票する。(棄権・白票は禁止)

・投票日に欠席が予めわかっている生徒 については「期日前投票」を行うことを説明しておき、その仕組みについても学習させる。
・投票用紙は公認の用紙を模倣した形で作成し、臨場感を醸し出してみる。

- ④ クラスごとに選挙管理委員が開票作業を行い、各政党の得票数を発表する。

- ⑤ 「ドント方式」について説明する。実際に各政党が獲得した得票数に応じて議席を配分し、候補者名簿に従って当選者を決める。

- 第4時 低い投票率や一票の格差など日本の選挙制度の課題について学習する。望ましい選挙の仕組みや主権者としての政治参加のあり方を話し合い、意見を発表する。

各政党のマニフェスト

政党	マニフェスト
未来の党	- 国民の生活の質を向上させるため、リサイクルする人に現金を還元して活動を開始する。 - 緑を植やす一画：国の資金援助で一画に一本の植樹。 - 二画は自然など環境改善を推進する。 - エコカーの普及を促進し排気ガスを減少する。 - 一画で二画はともなくする。
革新党	- 地球から戦争を根絶する。 - 難民がいる地域に援助金を送る。 - 宇宙開発を推進する。 - 国境のボーラを張り巡らすなどの防犯対策や警備を強化して治安を良くする。 - ホームレス対策一割：住居や仕事を優先的に与える。
幸福党	- 少子化対策として育児費を支援する。 - 大企業経営者の生活補助金を支給する。 - 老人ホームを無料にする。 - 日本全体のバリアフリー化を推進する。 - いじめの根絶、自殺サイトなど悪サイトの調査。
正義党	- 国会議員の給料を10%削減する。 - 消費税を10%に上げる。 - 増税分は税関の支援に回す。 - 二画議員は議会の選挙区以外から立候補する。 - 必要のない事業を廃止し、税金のむだ遣いをなくす。
希望の党	- 星咲み、冬休みに戻る。 - 各都道府県に県民税が払える制度を推進する。 - 高校にエリートを設置、夏は「動く歩道」にする。 - 授業は30分単位で3時間で、休み時間10分にする。 - 選挙の準備を完了。

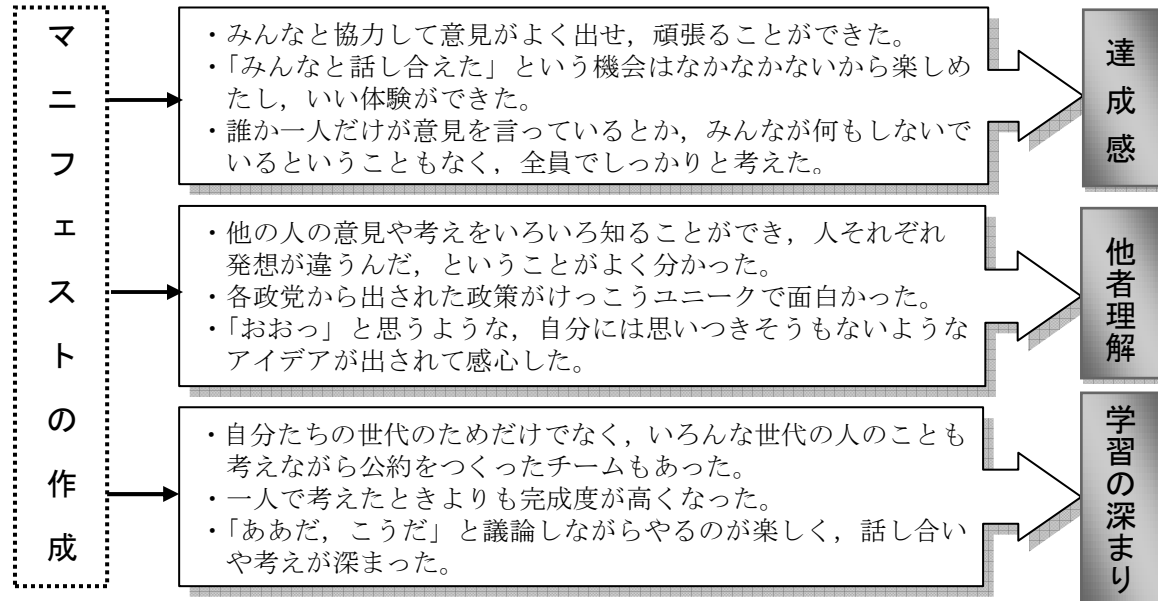
候補者名簿

候補者名簿
1. 田中 隆夫
2. 村中 正太郎
3. 田中 隆夫
4. 田中 隆夫
5. 田中 隆夫
6. 田中 隆夫
7. 田中 隆夫
8. 田中 隆夫
9. 田中 隆夫
10. 田中 隆夫
11. 田中 隆夫
12. 田中 隆夫
13. 田中 隆夫
14. 田中 隆夫
15. 田中 隆夫
16. 田中 隆夫
17. 田中 隆夫
18. 田中 隆夫
19. 田中 隆夫
20. 田中 隆夫
21. 田中 隆夫
22. 田中 隆夫
23. 田中 隆夫
24. 田中 隆夫
25. 田中 隆夫
26. 田中 隆夫
27. 田中 隆夫
28. 田中 隆夫
29. 田中 隆夫
30. 田中 隆夫
31. 田中 隆夫
32. 田中 隆夫
33. 田中 隆夫
34. 田中 隆夫
35. 田中 隆夫
36. 田中 隆夫
37. 田中 隆夫
38. 田中 隆夫
39. 田中 隆夫
40. 田中 隆夫
41. 田中 隆夫
42. 田中 隆夫
43. 田中 隆夫
44. 田中 隆夫
45. 田中 隆夫
46. 田中 隆夫
47. 田中 隆夫
48. 田中 隆夫
49. 田中 隆夫
50. 田中 隆夫
51. 田中 隆夫
52. 田中 隆夫
53. 田中 隆夫
54. 田中 隆夫
55. 田中 隆夫
56. 田中 隆夫
57. 田中 隆夫
58. 田中 隆夫
59. 田中 隆夫
60. 田中 隆夫
61. 田中 隆夫
62. 田中 隆夫
63. 田中 隆夫
64. 田中 隆夫
65. 田中 隆夫
66. 田中 隆夫
67. 田中 隆夫
68. 田中 隆夫
69. 田中 隆夫
70. 田中 隆夫
71. 田中 隆夫
72. 田中 隆夫
73. 田中 隆夫
74. 田中 隆夫
75. 田中 隆夫
76. 田中 隆夫
77. 田中 隆夫
78. 田中 隆夫
79. 田中 隆夫
80. 田中 隆夫
81. 田中 隆夫
82. 田中 隆夫
83. 田中 隆夫
84. 田中 隆夫
85. 田中 隆夫
86. 田中 隆夫
87. 田中 隆夫
88. 田中 隆夫
89. 田中 隆夫
90. 田中 隆夫
91. 田中 隆夫
92. 田中 隆夫
93. 田中 隆夫
94. 田中 隆夫
95. 田中 隆夫
96. 田中 隆夫
97. 田中 隆夫
98. 田中 隆夫
99. 田中 隆夫
100. 田中 隆夫

【言語活動】

【チームでマニフェストを作成したことへの主な感想】

【効果】



1. チームとしてのマニフェスト作成への取り組み

よくできた	29%
まあまあよくできた	59%
できなかった	12%

2. チームの一員としての自分自身の取り組み

メンバーといつも協力し合えた	36%
メンバーと協力し合えた時もあった	52%
メンバーとうまく協力し合えなかった	12%

模擬選挙という体験的な学習に対しては、約8割の生徒が「ためになった」と回答した。その理由について述べた生徒の感想を分類し、列記してみる。

3. 模擬選挙という体験的な学習方法について

ためになった	79%
つまらなかった	6%
わからない	15%

- ・ドント方式など比例代表選挙の具体的な仕組みがよく分かった。
- ・当選する仕組みが学習したことであるほどと思えた。比例代表という意味がよく分かった。
- ・自分では未体験なことを模擬選挙という形で体験できたことで、一票の大切さが分かった。

これは、体験的な学習を通して**選挙についての知識が理解・体得できた**ことを示している。

- ・めったにできないことなので楽しかった。またやってみたいと思った。
- ・チームでマニフェストを考えたり実際に投票したりと、将来に役立つ貴重な体験ができた。
- ・早く有権者になって投票してみたい、選挙権を手にしたら毎回投票に行きたい。

これは、体験的な学習を通して**選挙についての興味・関心をもてた**ことを示している。

- ・開票の時、自分たちの党に何票入るのか、当選者が出るのか、ドキドキして見守った。
- ・たくさん票が入って嬉しかった。マニフェストを真剣に考えた甲斐があった。
- ・リアルだった。本物の選挙をやったようで興味ももて、飽きることがなかった。
- ・自分の意思で投票したことで、大人になった感じがした。

これは、体験的な学習が**現実味や緊張感をもたらし、それが充実感に繋がる**ことを示している。投票の仕方を工夫したこともこのような感想が出された一因と考えられる。

- ・自分が考えた政策をみんなに選んでもらうのがこんなに大変なことなんだと実感できた。
- ・マニフェストを納得させられた政党とそうではない政党では、得票数に差が出た。
- ・選挙で勝つ（議席を獲得する）ためには、有権者に対して真剣にマニフェストを伝えて、理解してもらわなければいけないんだと実感した。

これは、実際に選挙の結果を受けて、マニフェストが「どのような性格のものでなければならぬのか」を再認識したことを示す。つまり、自分自身で作成した時よりもさらに身をもって具体的に理解できたわけで、「二度学んだ」ということがいえる。

8 おわりに

チーム学習について	
興味をもてた	50%
ふ っ う	41%
つまらない	6%
よくわからない	3%

3つの授業実践後に実施したアンケートで「チーム

学習に興味をもてた」という生徒が半数にのぼったが、その理由をまとめてみた。

チーム内で話し合うことを通して、生徒は多様な考えや自分とは異なる発想に気づき、自己を客観視する、多様な意見を受容する、他者を理解することを学んだ。そこでコミュニケーション能力が育まれ人間関係の広がりや深まりへと発展していく。これは3ページで触れた、経済産業省が「社会人基礎力」として掲げる3つの能力とそれに必要な12の能力要素の育成とも重なる。つまり、3つの能力のうち、「前に踏み出す力」および「チームで働く力」、またその能力要素となる「主体性・働きかけ力・実行力・発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力」との関連性が深いと言える。

年度当初の「自分に合った学習のスタイル」に関するアンケートを実践後にも行ったところ、「動いたり、実際に試してみたりすることによって学ぶ」ことを選んだ生徒が2割ほど増えた。その理由を生徒は、「頭で考えるよりも、体を動かしながら取り組んだ方が理解しやすい」「自分で体を動かしてやってみることでより実感できる」と述べている。これは実際にロールプレイや模擬選挙という臨場感が出て具体的に体感できる活動を実践した効果と言える。そこから生徒が「できた」「わかった」という達成感に目覚めて自己肯定感を得る。さらに授業への興味・関心が高まって、「楽しい、面白い」と実感することで学習意欲の向上も期待できる。また、「じっとしているのは苦手、動いている方が好き」と述べる生徒たちは、講義型の授業では集中することが困難で、教師から注意を受ける傾向が強い。逆にチーム学習では彼らの表情は生き生きとして、別人のように意欲的に取り組んでいたことは痛快ですらあった。また、「自分に合った、自分の好きな授業のタイプ」に関するアンケートでは、「先生が黒板を使いながら教えてくれる授業」を選んだ生徒が、実践後では年度当初の4分の1にまで減った。これはチーム学習を経験した結果、アクティブで体験的な授業の方が自分に適していると気づいた生徒が増えたからではないか。

チーム学習では、一斉授業では見せない、また教師側が気づかない生徒の新たな一面を発見し、教師の生徒理解が一層深まる場合もある。先述のチーム学習では輝きを見せた生徒もその一例である。また、チーム編成をする際、孤立してしまった生徒に対してさりげなく声をかけて仲間に加える。そういう気遣いをしてくれた生徒がいて私自身も助けられた場面があった。多面的に様々な角度から生徒を評価する必要性や重要性をこの時改めて認識した。

最後に、2年間にわたり貴重なアドバイスをいただき熱心に御指導くださいました指導課並びに教科指導員の先生方、そして共に実践研究に取り組んで切磋琢磨するなかで交流を深めた教科研究員の先生方に心から感謝申し上げます。

【参考文献】

- ・「効果10倍の〈教える〉技術 授業から企業研修まで」：吉田新一郎（PHP新書）
- ・「効果10倍の〈学び〉の技法 シンプルな方法で学校が変わる！」：吉田新一郎・岩瀬直樹（PHP新書）
- ・「学校の挑戦」：佐藤 学（小学館）
- ・「高校生の新現代社会—共に生きる社会をめざして—初訂版」教授資料：帝国書院編集部（帝国書院）
- ・「先生のためのアイディアブック—協同学習の基本原則とテクニック—」：日本協同教育学会（ナカニシヤ出版）

◆はじめは初対面で緊張したが、次第に楽しくなってきた。◆仲間同士で教え合うことができてよかった。◆いろいろと相談できる。◆話し合いながら取り組めるし、知らなかったことがいろいろとわかって興味がわいた。◆自分がわからないことを、知っている他の人から教えてもらえるし、その反対の場合もあるから。◆一人で考えたり調べたりするより、チーム学習の方が協力して楽しく取り組み、やる気が出る。◆みんなでやればいろんな考えや意見が出るし、できることも増える。◆動いてやることや、それを友達が違った方法でやるところを見ることができておもしろかった。